

2009年(平成21年)10月4日

海外支援活動 パネルで紹介

JICAの事業

国際協力機構(JICA)の事業で海外で技術支援にあたった県関係者の活動を伝えるパネル展が3日、鹿児島市の天文館地区のアーケードで



海外協力隊のパネル30枚展示
鹿児島市で今日まで
青年海外協力隊などの活動を紹介するパネル展が3日、鹿児島市東千石町の天神びらも

1で始まった写真。1日からの秋の隊員募集にあわせ、鹿児島県JICA派遣専門家連絡会(会長・志賀美英鹿児島大学文学部教授)が初めて企画した。4日まで。

始まった写真。中国での鉱物資源探査、アルゼンチンでの園芸など世界各地での活躍を紹介するパネル約30枚が展示されている。4日まで。

県JICA派遣専門家連絡会が主催。94～01年、中国で鉱物資源を探査する技術を伝授し、連絡会長を務める志賀美英・鹿児島大学教授は「人的協力で世界の国々との関係を深めることは日本のためにもなる」と話す。現地から持ち帰った鉄や銅、亜鉛などの鉱石が飾られ、子どもたちが興味深そうに持ち上げたり、顔を寄せて観察したりしていた。青年海外協力隊には県内から計583人が参加し83カ国で活動。鹿児島は青年人口比(20～39歳)の参加率が全国



会場には、JICAから中国やインドネシアなどに派遣された専門家や青年海外協力隊員らが、医療活動、火山の研究をする様子を紹介したパネル30枚を展示。派遣経験者が、同協力隊などへの参加希望者の相談に応じるコーナーもある。

1985年から1年半、チリに派遣された志賀会長は「海外で生

活することで世の中の見え方が変わる。日本を担う若い人に、そういう経験をしてもらいたい」と話した。

ティアを募集している。

問い合わせは、JICAデスク鹿児島(099・221・6624)へ。

1、2位を争うほど高いという。協力内容は助産師や日本語教師、野菜栽培、養殖など様々。国際協力推進員の力竹貴子さんは「協力の職種は120種類以上。無縁と思う人でも、できることがあるかも知れません」と話す。JICAは11月9日まで、青年海外協力隊員とシニア海外ボラン

2009年(平成21年)10月4日